

第1回小牧市教員の多忙化解消プラン策定委員会会議録

1 開催日時	令和元年5月22日(水) 午前10時00分から
2 開催場所	小牧市役所本庁舎601会議室
3 出席	中谷委員長、細副委員長、前原委員、斎藤委員、大藪委員、熊澤委員、高堀委員
4 欠席	浅田委員、塚本委員
5 事務局	■学校教育課 堀田課長、加藤主幹兼指導主事(統括)、瀬尾指導主事、松本係長 ■教育総務課 小川課長
6 傍聴者	0人
7 議題	(1) 小牧市教員の多忙化解消プランについて (2) その他

<開会 午前10時00分>

1 開会

(堀田課長)

皆様、本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

定刻となりましたので、ただ今より、「第1回小牧市教員の多忙化解消プラン策定委員会」を開会いたします。

私は、司会を務めさせていただきます。小牧市教育委員会学校教育課長の堀田です。よろしくお願ひします。

<資料確認>

まず始めに、資料の確認をさせていただきます。

・次第

・策定委員会委員名簿

・小牧市教員の多忙化解消プラン

・策定委員会設置要綱

・座席表

・次回の開催案内でございます。

不足などがございましたら、お申し出ください。

傍聴について

続きまして会議の公開について、本委員会は、「小牧市審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき開催するものでございます。

原則公開とさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。なお、本日の傍聴はございませんでしたのでよろしくお願いいたします。

それでは次第に沿って進めさせていただきます。開会にあたりまして、加藤学校教育課統括指導主事よりあいさつを申し上げます。

(1) あいさつ

(加藤統括指導主事)

本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。国や県の方でも働き方改革ということで、いろいろな分野で審議をされ、実際に様々な施策が実施されているところではありますが、教員、学校現場におきましても十分ではない部分があると感じております。小牧市においては、昨年度から教員の多忙化解消プラン策定の準備委員会ということで、プランの案を考えてまいりました。本日、策定委員会を開催させていただきまして、皆さんの率直な意見をいただき、多忙化解消に向けて一つでも二つでも何か良い施策ができればと考えております。事務局からも今年度、実施していきたいといった提案もさせていただきますので皆様から率直なご意見をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

(2) 委員の委嘱について

(堀田課長)

続きまして、「委員の委嘱について」であります。

皆様方におかれましては、ご多忙の中にもかかわらず、委員就任についてご快諾賜りまして、誠にありがとうございました。

委嘱状につきましては、本来であればお一人ずつにお渡しするのが本意でございますが、時間の関係上、大変恐縮ではございますが、あらかじめ机上にご用意させていただきましたので、よろしくお願いいたします。

それでは、大変恐縮でございますが、委員の皆様のご紹介をさせていただきます。

名古屋経済大学	前原 宏一 様
区長会連合会長	細 敏雄 様
小牧市PTA連絡協議会	斎藤 奈津美 様
小牧中学校長	中谷 直 様
米野小学校長	大藪 徹也 様
桃ヶ丘小学校教頭	熊澤 智子 様
北里小学校教諭	高堀 文男 様

なお、小牧市PTA連絡協議会 浅田勇一様、小牧小学校長 塚本真也様につきましては、本日は所要によりご欠席でございますのでよろしく申し上げます。

続きまして事務局の紹介をさせていただきます。

教育総務課	小川課長
学校教育課	加藤統括指導主事
学校教育課	瀬尾指導主事
学校教育課	松本係長

私、学校教育課長の堀田です。よろしく申し上げます。

(3) 会議の運営等について

(堀田課長)

続きまして、会議の運営等について、担当よりご説明いたします。

(瀬尾指導主事)

恐れ入れますが、資料の「小牧市教員の多忙化解消プラン策定委員会設置要綱」をご覧ください。

まずは、第1条及第2条をご覧ください。この委員会は、昨今のマスコミ等による報道で一般的にも知られるようになった教員の勤務について、その多忙さを解消するための具体的な方策について検討し、「小牧市教員の多忙化解消プラン」を策定するために設置するものでございます。

第3条、組織等でございますが、この委員会は、学識経験者、学校関係者、地域住民の代表者、児童生徒の保護者の代表者等、9人以内の委員で組織し、任期は今年度中でございます。

第4条、この会には、委員長、副委員長を置き、委員の互選で定めるとしておりますので、後ほど委員の皆様にご審議をお願いします。

第5条、会議は、委員長により招集され、議事につきましては、取り回しをお願い

するものであります。

以下につきましては、ご覧おきください。よろしくお願いいたします。

(堀田課長)

会議の運営等について、事務局よりご説明申し上げましたが、ご質問があればお受けいたします。よろしいですか。

2 委員長、副委員長選出について

(堀田課長)

それでは、次第の2、委員長、副委員長の推薦をお願いしたいと思います。

先ほどご説明申し上げましたが、委員長、副委員長の選任につきましては、委員の互選により定めるとされております。

恐れいりますが、委員の皆様より、立候補あるいはご推薦をいただきたいと存じますが、いかがでしょうか。

(大藪委員)

委員長は中谷委員に、副委員長は細委員をお願いしたいと思います。

(堀田課長)

今、大藪委員より委員長には中谷委員、副委員長には細委員という発言がありましたが、いかがでしょうか。

「異議なし」の声あり

皆様のご異議もないということですので、委員長は中谷委員、副委員長は細委員をお願いしたいと思います。

それでは、中谷委員におかれましては、大変恐縮でございますが、委員長席へ移動願います。

「席移動」

それでは、改めまして、委員長にご就任いただきました中谷委員にごあいさつをいただきたいと思っております。

中谷委員長よろしくお願いいたします。

(委員長)

ただいま委員長にご推挙いただきました中谷と申します。学校現場が抱える様々な教育課題がたくさんある中で、教員の多忙化についても大きな課題であるといった認識を持っております。したがって、小牧市においてもこの委員会は非常に重要な会議ではないかと認識しているところであります。その委員長を任されることになり、

重責を感じております。皆様方のご協力をいただきながらより良いプランが策定できればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(堀田課長)

ありがとうございました。ここからの議事の取り回しにつきましては、委員長にお願いしたいと思います。委員長よろしくお願いいたします。

3 議題

(1) 小牧市教員の多忙化解消プランについて

(委員長)

それでは、議題(1)小牧市教員の多忙化解消プランの(案)について、事務局より説明を求めます。

＜事務局より「小牧市教員の多忙化解消プラン」(案)の説明＞

(委員長)

ありがとうございました。

今、このプランについて事務局から説明いただきました。量的なボリュームより、質的なボリュームが非常に多く、議論もなかなか難しいと思いますが、表紙裏の目次を見ていただきますと、大きく大項目1、2、3、4とあります。事務局の説明にもあったように、3番のところが分量的に多いと思いますので、議論の中心はここになると思いますが、まずこの大項目ずつ順番に質疑を進めたいと思います。

1番の多忙化の現状、1ページと2ページに当たるところですけれども、全国的あるいは県全体の実態、それから小牧の実態として書かれております。何かこの中で、ここは議論というよりも、根本的に難しい、わかりにくい、あるいは実態としてどうなのかという点で、ご質問など何かございましたらお願いします。

特に、学校関係者以外の委員さんにおかれましては、学校現場の実態が書かれていますけれども、実際にどうなのかということですか、ご質問があらうかと思っておりますので、それを出していただくと、次からの議論が進むと思います。

いかがでしょうか。前原委員、お願いします。

(前原委員)

2ページの多忙化の原因という部分のグラフについて、このデータを教育委員会としてどう総括してみえるのかなど。2年ちょっと前まで、小牧市の現場で働いていた

立場で言うと、授業の準備で時間外までがんばるとか、学級・学年の準備、子どもたちの関係のことで残ってしまうというのは、管理職としてありがたい部分でもある。

一方で、それ以外にも部活動や生徒指導、行事の関係などがあると思うのですが、この結果や現状についてどんなふうに分析してみえるのかというのを教えていただきたい。

(委員長)

関連したことで何かご質問はありますか。

では、このデータをどう捉えるかという考え方の問題だと思いますけれども、事務局よろしいですか。

(事務局)

もちろん授業をする、そのための準備をするというのは教員の本分でありますので、当然一生懸命やらなければいけないものだと思いますが、効率化を図ることは可能かと思います。先ほどのICTの活用ではないですが、効率化を図ること、また共有化を図っていくことは可能と考えております。

ただ、授業に付随する学習指導ということで考えると、宿題の量は果たして適正なのだろうかとか、それをチェックする時間等も当然勤務の中には含まれますので、そういったところを少し見直してはどうかということは検討の余地があると思います。テストの回数も含めて、検討の余地はあると思います。この①の授業関係以外のところで、例えば行事なんかでも、最近の運動会ですが、小牧市は全ての学校で2学期に行っているのに1学期に運動会はやっていませんが、午前中で終わる学校が随分名古屋市のほうでも多いというような報道がされているかと思います。そういった行事の精選なんかも、ビルド・アンド・ビルドではどうしてもどんどん増えていくわけですので、今後大胆にビルド・アンド・スクラップして、見直していく必要があるのではないかと考えております。

また、生徒指導関係でいろんな問題行動や不登校等、さまざまな教育上の諸課題があるわけですが、それはやはり教員だけで解決できる問題ではありませんので、いろんな関係機関と手を携えてやっていくことで、教員の負担感を減らしていくことは可能ではないのかということは、このグラフ等から考えているところであります。以上です。

(委員長)

ありがとうございました。

今の分析をどう捉えるかとお話がありましたけど、前原委員、そういうような分析、考えをどう捉えるかという文言を、多少入れたほうがいいのかというご意見ですか。

(前原委員)

こういう現状であれば、今お話を聞いて、説明でも伝わってはくるのですけれども、要するに、こういう現状をデータとしてではなくて、こういう状態だったらこれでいいか、この後のプランにつなげるための示唆というか、とにかく現場の先生が意識を変えていかないと、なかなか変わらない問題だろうと感じているので、ちょっとお聞きしました。

(委員長)

そうすると、ここでは、この現状だと言い切るだけではなくて、次につなげるというか、この後のプランにつなげるためにも、あるいは前原委員が言われたように、教員自身の意識改革を促すためにも、ここに分析なる文言を多少つけ加えてもらうということよろしいですか。

そのほか、1ページ、2ページにわたってございますか。

大藪委員。

(大藪委員)

1ページと2ページで、今の前原委員のご意見は、本当に教員の意識を変えるということで、すごく大事です。校長としても、ワーク・ライフ・バランスということで、時間をかけてやらなければならないことが教員としての資質の高さではないと、うまく決められた時間の中でどう処理していくか、どう時間を使っていくのかということが大事だということで、意識のほうにつきましては常に言い続けております。

ここの多忙化の原因となる授業関係や事務関係、部活関係や生徒指導関係、行事関係とそれぞれ書いてあるのですけれども、これを具体的にどうしていくかというのが、この多忙化解消の具体的な取り組みの中で書いてあると思います。ですので、ここに何を事務局はつけ足されるのかなあとということがよくわからなかったですけど、具体的にこの授業関係の改善を図るのは、これだということがわかるように示してくれということを書いてみるのか。あるいは、学級・学年、事務関係はこれだと、部活関係はこれだよと、生徒指導関係はこれだよということをここのところで書くということは、なかなか難しいのではないかと思います。大項目の3の具体的な手段の取り組みの中に、それは全部あらわれているような気がするのですが、何かものすごく大きな文言になるような気がします。

(委員長)

前原委員。

(前原委員)

そういうことではなくて、たまたま教員を目指す学生たちといろいろと学び合っている中で、この教育現場の多忙化が今話題になっている。働き方改革がある一方で、

教員は法的にいうと、絶えず研修と就業に努めなければいけない。その狭間の中で、一面的に授業の準備や授業に時間をかけて、子どもたちに学びを保障するための準備をしてくれている現場の人たちを全否定することはできないと思います。

ただ、結果として働き過ぎている現状があるというのを、ありがたい部分はあるけど考え直さなければいけないということも書いた方がいいと思って。具体的な取り組みは後から出てくるので、これを踏まえて考えていきましょうよというような考えるスタート的な文になると思います。

教員が何で自分たちが頑張っているのに、いけないことなのだとすることをいう者もいましたので、じゃあ家へ帰ってやればいいのかとか、そういう末端的な方向に走り出してはいけないと思います。

だから、学校以外のところで研修や就業に努めるのはいくらでもあるし、地域で研修を積んだり、就業したりというものもあるし、自分のワーク・ライフ・バランスの中で考えていくという部分を考えていかせる。要するに、何が言いたいかという、みんな考えていきましょうというきっかけをつくっていく、渦をつくっていくかないと、いい方向に渦が巻いていかないのではないかということを感じました。ここに対して大きなことを出すという意味で言ったわけではなく、ありがたい取り組みではあるけど、結果、一方で働き過ぎだよというのが出てくるという、そういう意味です。

(委員長)

わかりました。前原委員の言われるのは、ここに具体的なことを積み上げて書くのではなくて、この実態は実態だけど、実態をそのままに看過できないというか、課題ではあるという認識で、課題を先ほど事務局からの説明の中の文言をおかりすると、効率化を図らなきゃいけないとか、あるいは方法について見直さなきゃいけないとか、そういったところで課題提起をしておいて、次につなげるぐらいの文言が入るといいということによろしいですね。

(前原委員)

それで次につなげていって、具体的にはというふうにつなげていくといいのではないかと思います。

(大藪委員)

それは、3ページ以降に考え方ということで書いてあると思います。ここはあくまでも多忙化の原因のデータの収集ということで原因をあげてある。しかし、前原委員が言われるように、現場の教員の意識を改革していくということは大事だと思います。

(前原委員)

意識改革については、これまでも大藪委員が申されていましたが、やはり変えていきましょう、在校時間記録もみんなですべていきましょうという動きの中で、なかなかそうは言ってもという現場の先生たちの考え方などもあります。ですから、確かにこの現状を踏まえて、3つの考え方でいきましょうというのがあるから、これに集約していくのだという構成でいいと思います。

(委員長)

多少なりとも次につなげるような少し工夫をしていただく程度で捉えたいと思いますが、よろしいでしょうか。

では、事務局の方もお願いします。

それでは、次に3ページ、4ページにあたるどころ、大項目で2番の考え方について、何かありましたらお願いします。

(細委員)

簡単に質問しますが、我々も住民の立場で、当然このグラフの中では、2番、3番、4番、5番というのは、先生の負担としてはわかるわけですね。それは率的にも15%以内ですから、特に授業関係で38%。これは学校の先生が足りないのか、個人の先生により負荷がかかるのか、極端にいえばどのような実態なのか、参考までにわかれば教えていただきたい。

(委員長)

授業関係が多いということですが、学校現場の方で、高堀委員どうですか。

(高堀委員)

自分は今、校務主任ということで、担任をしているわけではないですが、やはり教員ということで、いろいろな仕事の内容の中でも、一番は授業のことに力を入れたいと思っています。もちろん授業だけで子どもを育てているわけではないものですから、行事の中でいろんなことを子どもたちに考えさせるとか、体験させるということもあります。今お話を伺っていて、いろんなことを整理していく中で、もう少し授業の準備に時間をかけられたらいいと感じました。

今ご質問いただいたように、教員の数、先生が足りないかということについては、単純に先生がたくさんいたら、いろいろな仕事を分担することで、もっと自分のクラスや授業に時間がかけられます。担当している授業の数やいろいろなことが関係していますが、仕事内容が整理されれば、自分たちが働いている時間の中で、できることも増えていくのかなあというふうには思います。

(委員長)

そういう実態があるということで、よろしいですか。

(細委員)

はい。

(委員長)

ありがとうございました。

2番の多忙化解消の考え方、3、4ページに係るところで、これは県教委のプランに準じており、小牧市としてもこう考えるということが資料に書かれています。

何かこの中で質疑等ありますか。

特にないということで、この考え方のもとに具体的な取り組みのほうに移りたいと思います。5ページ以降のところになりますが、まず(1)に当たるところが非常に盛りだくさんというか、多方面にわたっており、8項目もありますが、一つずつお伺いしたいと思います。

まず、1つ目の在校時間管理の徹底について、このあたりのところでご意見等ありますか。

私のほうからちょっと確認ですけど、他市町等、あるいは全国的な動きで在校時間管理の徹底は当然やっているところもあって、タイムカードですとか、機械的な把握の方法も示唆をされているところがありますけれども、小牧においては、それに取り組むという文言はここにはないのですけれども、事務局に考えはありますか。

(事務局)

タイムカードやパソコンのログを使って、教員の在校時間を客観的データで管理している自治体もあります。ただ、現在小牧市は手入力で在校時間を記録していますが、例えば勤務時間が終了した後少し休憩をしているとか、夜遅くなりそうだから食事をとっているとか、そういった時間は当然、勤務時間には入らないわけですね。それを引いてどれだけ働いたのかということは今を出しているわけですが、タイムカードであれパソコンのログであれ、自分でその時間を手入力で引いていかなければいけないとなると、本当に客観的なデータなのかなというところが難しい部分なのかなと思います。

お金をかけてその制度を整えていくよりは、今のかたちできちんと適正な在校時間を把握していったほうがいいのかと思っています。どちらにしても客観的なデータと、自分たちの手入力で差し引きしてやっていくものを併用することになると思うので、小牧としては、今やっている在校時間の管理を徹底してやっていきたいと考えております。以上です。

(委員長)

ありがとうございます。現状やっているものを徹底することによって、勤務時間の

管理の徹底に結びつけるという考え方があるということで、よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

では、2番目、始業時刻・終業時刻のことについて、委員の皆様、何かありますか。現状、実態も踏まえて。

(高堀委員)

自分は小学校に勤務していますが、勤務時間に合わせて子どもの登校時刻や下校時刻を決めていくことになると、保護者の方の負担もあり、難しいかなと正直思う部分があります。自分たちは労働者として働く者ですけど、同時に教育に携わる者でもあるので、子どもたちが目の前にいた場合に、勤務時間だから、勤務時間じゃないからと分けることは難しい話だと思いました。本来の勤務時間に、なるべく自分たちの勤務の実態を近づけていくのかというのは、本当に難しい問題ですが、一つの学校だけでできることでもないですし、全体でこういうところも考えをそろえていけたらいいと思います。

小学校だと、登下校はパトロールボランティアの方に大変お世話になっており、本当にしっかり見守っていただけて、朝もぐずったり途中で転んだりする子とかがいるわけですが、そういう子への対応も、地域の方の協力を得ながらやらせていただいているのが現状です。

(委員長)

こういうプランを打ち出して、各校が見直しを行うことについてのバックアップをしていただくことは、大変助かるというご意見かと思えますけれども、他の委員の皆さんはよろしいでしょうか。

では、3つ目、閉校日の設定。これについては、事務局から先ほども今年度このプランの策定に先行して実施するという話もありましたが、何かございますか。

今年度については、どれぐらいの日程で考えておられるのでしょうか。

(事務局)

8月の行事を組まない週間というのは、土・日も含みますので、どちらにしても学校はお休みですが、平日で考えますと、今年度の場合、13日火曜日から16日金曜日までを考えております。

(委員長)

今年度は、8月の13、14、15、16の4日間ということですよ。当然、年度によって、日にちも変わるとのことだと思いますけど、完全閉校にするということですよ。委員の皆様、どうでしょうか。

この辺の周知につきましては、また後で項目が出てきますので、改めて確認したい

と思いますが、この内容についてはよろしいですか。

次に、一番下の電話の受信を控える時間帯の設定について、これも今年度から実施するという説明がありましたが、このことについて何かございますか。前原委員。

(前原委員)

学校閉校日と電話の受信を控える時間帯をつくるというのは、今年度からぜひやっていただきたいと思います。しかし、PTAの関係、あるいは地域の立場で、どうなのかというところが少し心配です。どうしてもいろんな問題も出てくると思います。私としては挑戦してもらいたいと思いますが、PTAや家庭や地域に周知徹底というか、ご理解をいただかないといけない部分かなあとと思います。

(委員長)

齋藤委員、どうでしょう。

(齋藤委員)

私は、自分はそれほど学校に電話しないのでよくわかりませんが、ちょっと前に校長先生が、うちの小学校はすごい電話がかかってくると言っていたと聞いたことがあります。宿題を忘れちゃったから今からとりに行きますとか、忘れ物したからとりに行っていいですかと。18時や19時にかかってくるらしく、そういう電話を考えると、親としたらきっと学校には先生がいるだろうと思っているのだと思います。その辺の時間ぐらまでは、電話がつながっていたら親も安心するのかなと思いますが、先生の大変さを考えると無理かなとも思いますし。何とも言えないところですね。電話をかける方については、出てくれたら安心すると思うので。

(細委員)

今、聞き漏らしたのですが、時間帯で電話を受けないようにするということは何時から何時までか、もう一度確認したいです。夕方の何時から朝の何時までかということが、もし設定の基準か何かがあれば教えてほしい。

(委員長)

事務局どうですか。現時点で決まっていますか。

(事務局)

まだ、具体的に19時にするのか、20時にするのか、18時にするのか、次の日の朝は何時にそれを解除するのかということについては、具体的には決まっていません。検討している段階です。申しわけないですが、時間については現段階では申し上げることができません。

(細委員)

しかし、2学期には実施していくということだから、実際にはもう決めていかない

とね。どうでしょうかね。それも決まっていないの。

(委員長)

それについては、次回の会議が6月ですから、そこではお示しをいただくことになると思いますが、どうですか。

(事務局)

1学期中に、夏休みの閉校日についてもあわせて周知をと思っておりますので、1学期中に文書を出させていただきますので、その時点には時間等も明記させていただきます。次回では、こういった時間帯でやっていきたいということも、お示ししていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(委員長)

参考までに、私のいる小牧中学校では、2年前から独自に夜19時以降は電話に出しておりません。ずっと鳴り響いています。20時、21時でも、22時でも電話に出いてませんが、それによって問題が大きくなるということは今のところありません。

今年度のPTA総会で、私から教員の多忙化についても教育課題の一つであって、本校も取り組んでいるので、実はこういうことをしていますのでご理解くださいという話をさせていただきました。こういうことを市教委にバックアップしていただいて、他の学校でも取り組むことになるのだらうと思います。齋藤委員の言われるように、苦しい部分はあるけど、理解をしていただきたいところです。宿題は明日でいいので。

(齋藤委員)

私も明日でいいと思っておりますのですが、やっぱり親御さんの中には、心配で、やるのだったらやらなくちゃいけないから、とりに行ってらっしゃいと言っている方もいます。

(委員長)

命に関わるような緊急の連絡は別だと思っておりますので、通知の中にそういったことも入ってくると思っております。

では、ここの電話のことについてはよろしいでしょうか。

次に、定時退校日の実施にいきたいと思っております。

これを設けるのは、別に簡単に設けられますけど、あとは教員の意識の問題で、本当に帰れるかということになると思っております。

続いて、次の2つは関連しますので、衛生委員会等による組織的な改善及びメンタルヘルス対策について、このあたりはどうでしょうか。

では、一番下になります。

先ほどとの関連になりますが、周知や啓発キャンペーンのことについて、いかがで

しょうか。

ここに書いてあることは当然だということで、あとは具体的にまた次回になると思います。

ありがとうございました。

(1)はここまでにして、続いて、通常でしたら(2)だと思いますけれども、(2)と(4)が非常に似通っておりますので、(3)の部活動指導について先に議論を進めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

では、(3)部活動指導にかかわる負担の軽減ということで、次ページにわたって6項目書かれていますけれども、ここはどこからでも構いません。ご意見等をお願いします。

特にありませんか。

小牧市は、他市町に先行して少し進んでいます。特に1つ目の丸のところについては先行的に実施をしているところですが、それにプラスアルファのご意見があればお願いします。

前原委員。

(前原委員)

中学校の部活動の取り組みは、よく進んでいると思います。

一方、小学校の部活動というのは、社会体育に移行していくということで、そういう方法もあると思いますが、他市町の小学校部活動と関わって変な話ですけど、教員になるときに、小牧は環境がとてもしっかりけれど、部活動があるからやっぱり他市町がいいとか、大口は特に空調も整っているとか、笑い話みたいですけれど、そんな声も聞きます。長期的な展望としても、小学校の部活動については、社会体育としていく方向は無理だろうということでしょうか。

(委員長)

どうでしょうか。

(事務局)

部活動について、確かに小学校に部活動がない自治体も多いと把握しています。名古屋市でも、小学校の部活はなくしていくという方針があることを聞いています。

折しも昨年度の災害級の暑さ、これからまた夏で暑くなってくるわけですが、それで昨年度はサッカー大会の日程を変えて行ったということもありますが、今年度については、小学校の中小体連の部活動の大会をなくすということを決定しております。今後、社会体育にとかいうことについては、また今後の検討事項かと思っておりますけれども、もちろん大会がなくなったから部活がなくなるという、短絡的にそう

ということではないですが、活動方法については、考えていかなければならないと思います。学校も、大会がなくなったから部活動どうしようかなというような声があるということも聞いております。また今後考えていきたいと思います。

(委員長)

委員の皆さんもいいですか。

では、部活動について、8ページの方までよろしいでしょうか。

それでは少し戻って、6ページ下の方にあります(2)の学校マネジメントの推進のことに何かご意見等がありますか。

これは、学校現場の中の問題と取り組みが書かれていると思います。よろしかったですか。

では、ここも特にないということで、最後の項目、(4)番、9ページ、これは環境、このプランを進めるために、さまざまな角度からの環境整備が中心になると思います。項目は多岐にわたっておりますが、どこからでも構いません。ご意見等ありましたらお願いします。ここもよかったですでしょうか。

それでは、最後11ページになります。

スケジュールが出ておりますが、10ページまでの項目について、短期、中期、長期の目標が打ち出されていますが、これについてどうでしょうか。

よろしいですか。

ありがとうございます。

議題の(1)はここまでとなりますが、全体を通して何か言い忘れたことはないですか。

(前原委員)

すみません、ちょっと教えてほしいのですが、小牧市教員の多忙化解消プランということで、こういう検討が行われていて、一応方向性が示されるということになっていますが、現場の先生たちはそういう動きがあるということは、管理職だけじゃなくて、理解をしてみえるのでしょうか。

(事務局)

まず、校長会の方につきましては、昨年度から準備委員会ということで立ち上げていることは周知をさせていただいております。今回、策定委員会ということで第1回を終えましたので、6月の校長会に、この原案で今進めているということをお話させていただいて、各教職員のほうへ周知してもらおうようお願いしたいと思っております。

(委員長)

前原委員、よろしいですか。

(前原委員)

はい。

(委員長)

その他、ありますか。よろしいですか。

(2) その他

(委員長)

それでは、議題の(2)その他について、事務局の方で何かありますか。

(事務局)

熱心なご討議、ありがとうございました。いただいた意見については、また今後、事務局としても検討していきたいと思っております。また、次回の策定委員会で委員の皆さんにご提示できればと思っております。よろしく願いいたします。

それでは、その他といたしまして、次回、第2回の策定委員会についてご連絡申し上げます。

お手元に、次回の第2回多忙化解消プラン策定委員会の開催案内を配布させていただきました。ご都合等もあると思っておりますが、今回は6月28日金曜日、時間は同じですけれども、場所はここではなく402-1、本庁舎の4階にある、ここより少し手狭な会議室になります。そちらのほうで開催したいと思っております。お忙しいところ恐縮ではございますが、よろしくお願いいたします。以上です。

(委員長)

次回のことまで聞きましたが、よろしいですか。

たくさんの委員の皆様のご都合が悪いと、ちょっと難しいのですが。

ありがとうございます。

では、また次回ということで、私もこれで今日の任は解かせていただきます。事務局にお返しします。

(堀田課長)

それでは、委員の皆様方、ご審議大変ありがとうございました。

教員でない立場からしますと、実際の学校現場の状況というのが、なかなかわからないというところでご意見をいただきました。

いずれにしても、学校のほうで何かしらの変化をとということを考えますと、どうしても保護者の理解、地域の方々の理解というのがすごく大事な部分になってくるかと思っております。これを伝えていくのがなかなか難しいというのを感じております。ただ、少しずつでも一歩ずつ何かしらやっていかないと、先ほど前原委員のお話の中で

も、教員を目指す学生が少し減ってきているというような、本当に大変な状況もお聞きすることがあります。教育委員会として、学校全体として見たときに、より良い方向性で多忙化解消を進めていきたいと思います。意識的な問題も、すごくあると思います。多忙化解消や働き方改革というのが、これは学校現場だけではなくて、国全体で、民間企業も含めて言われるのですが、あたかも働き方改革イコール仕事を楽にするという単純な発想になってしまって、やる気をなくしてしまうようなかたちになってはいけません。先ほどいただいた意見の中で、そういった部分の考え方もお示ししながら、いい多忙化解消プランにしていきたいと感じております。

第1回目をこれで終えますが、今年度、第一歩を進めていきたいということで、短期のスケジュール感ではありますが、次回、第2回もあらためてご意見をいただきまして、保護者の方や地域住民の方の理解を得ながらやっていきたいと思いますので、ご理解いただきますよう、どうぞよろしく申し上げます。

では、これをもちまして、第1回の多忙化解消プラン策定委員会を閉会いたします。どうもありがとうございました。